

お よう かん きょう ほ ぜん かい
小用環境保全会 (庄原市小用町)

地区の概要

設立年度	平成21年度
認定農用地面積	田 6,197a 畑 45a
農業用施設	水路、農道、ため池

平成20年度に集落で農業法人を設立した事をきっかけに活動組織を立ち上げ、本事業に取り組み始めました。

自治会と連携して、花の植栽活動や、地域集落内の清掃活動、外来種（セイタカアワダチソウ、ヌートリア）の駆除、河川への濁水流出防止活動及び広報資料配布による普及・啓発活動を行っています。



い い やま ち い き し げん ほ ぜん かい
飯山地域資源保全会 (庄原市東城町森)

地区の概要

設立年度	平成26年度
認定農用地面積	田 1,710a
農業用施設	水路、農道

農用地、農道、水路の草刈りや農道側溝と水路の泥上げ、有害鳥獣対策のワイヤーメッシュの点検と補修等、地域資源の基礎的な保全活動に取り組んでいます。

交付金は主に施設管理の作業日当や路面維持の資材費などに充てているため、集落の環境維持に大変役立っています。

高齢化や人口減少といった課題もありますが、今後もこの制度を利用し、地域資源の保全活動に取り組み、集落機能の維持に努めます。



下川西活動組織 (庄原市川西町)



地区の概要

設立年度	平成24年度
認定農用地面積	田 2,893a
農業用施設	水路、農道、ため池



芸備線から眺めて！

10年前、かずら（クズ）の蔓やセイタカアワダチソウにすっかり覆われていた広範な市道法面は、決して見映えのする風景ではなかった。

営農集団を中心として農地の有効活用などにも取り組んできた本地域であるが、将来を見据えるなかでは、担い手不足から遊休農地、耕作放棄地の発生も危惧され、集落農業法人化が検討されていた時期でもあった。

併行して地元自治会とも連携し、地域内の非農家を含めた全戸参加による共同での地域づくりも重視され「農地・水・下川西活動組織」が設立された。

活動組織の取り組みは、農地、農道、水路等の適正管理を基本としながら、資源向上活動の取り組みのなかで、有害鳥獣防護柵の設置、定期的な管理を行うほか、有害獣の居場所ともなり、周辺農地に悪影響も及ぼし始めていた法面の環境改善に取り組んできた。

はびこっていたクズなど雑草の草刈りを実施し、ソメイヨシノを植樹したが、植樹直後は繁殖旺盛な雑草のなかで、苗木を刈り払ってしまうことも度々あった。しかし、毎年2回の草刈り作業、除草剤散布や苗木への施肥など、会員の努力が実を結び、最近やっと見映えし始めた桜。

近い将来、シンボルとなる桜の下で、共同で守りゆく農地を見下ろしながら、地域住民が寄り添い花見のできることを期待するとともに、芸備線利用者からも眺めていただくことを願うものです。



ひらこのうちほぜんくみあい 平子農地保全組合（庄原市西城町）

地区の概要

設立年度	平成26年度
認定農用地面積	田 1,049a
農業用施設	水路、農道



・主な活動

水路 定期的に清掃と土砂取り、草刈り

農道 定期的に草刈り

有害鳥獣対策 定期的にワイヤーメッシュの点検と補修

・特徴的な活動

基幹水路が2本あり。

① 通称「上井出水路」は、区間によっては山からの排水路も兼用しており、集中豪雨等には土砂の流入があり、その都度取り除いている。

② 通称「下井出水路」は、取水場所から200m程度が河川内の堤内水路となっており、集中豪雨の度に土砂が入り、撤去作業に多くの時間と経費がかかっている。

・取り組んでよかったことや、アピールしたいこと

地域の環境保全に資するため、不在地主の耕作放棄地を年一回草刈り作業をしている。また、竹林繁茂の抑制のための刈り払いも行っている。これらは、地域の良好な環境保全に役立っている。また、共同作業を通じて地域の良好な人間関係の形成が成された。

この事業により、出歩に対する賃金補償ができていたことが継続して行える要因といえる。

・取り組み前から変化したこと

色々な事業を行う上で、世話役に指示される昔からの講ではなく、年度当初に事業計画を立案し、総会で承認され、詳細を役員会で協議し、広報紙などで情報を伝達し、自らの地域のこととして組織的に行動できるようになってきている。

従来は、農業関係者だけの取り組みであったが、居住している農業者以外の住民の協力が得られるようになった。

・今後の目標など

短期的には、現状の制度の支援を受けて農地や居住地の環境を維持すること。中長期には、高齢化が進み実践者が減少し、今と同じ施設管理が行えるか不安がある。現在の支援制度の拡充（単価を上げるなど）を要望したい。また、災害復旧等の地元負担金や専門業者へ作業請負についても、事業の対象としてほしい。

